

令和元年度 さいたま市立針ヶ谷小学校 自己評価書

校長 坪井 政彦 印

1 学校で設定した「令和元年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「よい授業の4つの因子」を視点とした授業改善と実践により、児童の主体的な学びを目指す。
- (2) 体育科を柱とした学校課題研究を通して、児童の体力向上を目指すとともに、主体的に運動に取り組もうとする態度を育む。
- (3) 生徒指導・教育相談、特別支援の常設委員会の充実と特別な支援を要する児童の支援体制確立。
- (4) 運動会や音楽会などの行事を通して児童の感性を育み、表現力を高める。
- (5) 健康・安全指導の充実や、学校施設の修繕・管理により安全・安心な学校づくりに努める。
- (6) 教職員の働き方改革の推進。

2 評価結果について（成果：○ 課題：●）

- (1) ○学校課題研究を中心に「主体的な学び」「協働的な学び」を基に授業改善に取り組んだ結果、昨年度より「とてもできている」が3.6%上昇し、95.3%の児童の肯定的な回答を得られた。
●保護者アンケートでは81.4%の肯定的な回答を得られたが、一方約18%の否定的な回答があった。「進んで学習」の状況が家庭では見えにくいとも考えられる。授業の充実引き続き取り組むとともに、学校公開日などで保護者に伝えていく努力も必要である。
- (2) ○児童の92.7%が肯定的な回答をした。学校課題研究も3年目を迎え、また体育部を中心に体力アップキャンペーンなどの体力向上の手立てが講じられ、その成果を児童自身も実感している結果だと考えられる。
- (3) ○教職員の学校評価では100%の肯定的評価となった。情報交換、共通理解が行われ、対応が必要な事例では、早めの対応を組織的に行えた。相談に関する保護者の肯定的評価も91.8%と高かった。
●児童の肯定的評価は86.6%で、保護者や教職員に比べ低い。児童の細かなサインに教師が気づき、適切な対応ができるよう、さらなる支援体制づくりを心掛けたい。
- (4) ○運動会や音楽会の行事は保護者だけでなく地域の方々も大変楽しみにしており、児童・保護者から約90%の肯定的な回答を得られた。
●教職員の学校評価でも、その教育的効果では肯定的評価は100%になるが、「学校行事の精選」という視点からは意見もあり、検討していく必要がある。
- (5) ○放課後の遊具点検や日頃の安全点検などで学校施設の管理・修繕を計画的に行うことができた。また児童の集会活動にも力を入れ、保健、食育、安全等の指導が効果を上げており、肯定的な回答は、児童から95.5%、保護者から97.2%となった。
●児童は「安全な生活を送っている」に肯定的な回答をしていたが、現状としては下校の仕方や放課後の自転車の乗り方に課題が残るので「校内」と「校外」の意識の差がある。
- (6) ●行事・業務の見直しと改善についての教職員の学校評価は、否定的回答が32%となり、今後の検討と改善が必要である。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

本年度も学校長の「学校経営全体計画」に基づき、全教職員がそれぞれの立場から力を発揮し学校評価はおおむね高評価を得られたといえる。来年度に向けての課題としては教職員の働き方改革を促進させることである。負担軽減策として行事の精選または縮減、さらに業務の改善策が必要である。教職員一人ひとりがその力を遺憾なく発揮するためにもその側面である「働き方」の改革も学校改善の視野に入れ、来年度は具体的に行事や業務の精選または縮減が見えるように進める。

令和元年度 さいたま市立針ヶ谷小学校 学校関係者評価書

さいたま市立針ヶ谷小学校

学校関係者評価委員長 橋本 孝 印

1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数
9名
- (2) 実施回数
年間2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- (1) 児童の挨拶ができなくなってきている点について
幼稚園の学校評価でも、挨拶についての項目は評価が低い。挨拶の意義等を伝えていく必要がある。一方、今は外では防犯上子どもが他人に挨拶をすることはない、人には挨拶をしない指導をしているのに、学校だけでは難しいことである。家庭の環境も変わってきている。
- (2) 教職員の働き方改革について
働き方改革は幼稚園でも課題。熱心な先生の負担で支えられている。何年もそれでできるか。教員を守るという視点を打ち出しているのではないか。働き方改革はぜひ、取り組んでほしい。教員や保育者の不足が深刻な問題で、働き方だけでなく、給与や手当の問題もあり、東京に人材が流れてしまう。採用の問題も長期的に考えていかなければならない。
- (3) 学校行事の在り方について
学校行事も縮減の方向でいいのではないか。運動会のPTA種目や地域の競技を減らす方がいい。また、運動会、音楽会等での来賓の席はもっと後ろなどでいいと思う。地域優先ではなくて、保護者優先にしているのがいいと思う。子どもたちが生き生きしているのは良い、見ている人にも力を与えてくれる。情操教育に力を入れていくことは大切。いい行事は残して、子どもの育成に力を入れてほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

挨拶については、さらに学校での意識づけや意義を考えさせていく指導が必要。講話や生活朝会などの全体での指導だけでなく、道徳や学級会活動などを活用して指導を重ねていく必要がある。また、キャンペーンなどの活動も引き続き行い、活動を盛り上げていきたい。地域との連携も推進し、安全対策会議やありがとうの会などで、防犯ボランティアや地域の方へのお願いをしていく。

教職員の働き方改革については、ご心配いただき、推進すべきとご意見をいただきありがたい。来年度は、行事の精選・縮減、年間行事計画の見直し等に着実に取り組み、働き方を変えていきたい。具体的には、運動会や巣立ちの会の内容や実施の方法について確実に着手したい。

学校行事の在り方は、働き方改革にも係わるが、子どもたちの育成にとって大切なものと削っていけるものとを判断し、縮減は図りながらも効果あるものを工夫したり充実させたい。

今回も様々なご意見や貴重な情報を得ることができ、有意義な会であった。今後の指導に生かしていきたい。

さいたま市立針ヶ谷小学校長 坪井 政彦 印